

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903136	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	有眼会社 ライム倶楽部山下			
事業所名	グループホーム来夢の家			
所在地	(〒238-0046) 神奈川県横須賀市逸見町1-38			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年10月21日	評価結果 市町村受理日	平成27年12月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・町内会との交流を図り、様々な季節の行事へ参加している。 ・季節を感じて頂けるような日本の風物詩を取り入れる。 ・ご家族と共にターミナルケアへの取り組みを行っている。 ・近隣の婦人会や保育園との交流を図り、散歩に出かけたり、ホーム内で遊んだり季節の行事を共に楽しんでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年11月25日	評価機関 評価決定日	平成27年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇職員全員で業務の流れを見直しマニュアルを改訂 職員は職員会議で、理念である「慈愛・尊敬・受容」の精神で、業務の流れを見直してマニュアルを改訂し、利用者がその人らしく楽しく過ごせるように希望に沿った支援に努めている。</p> <p>◇地域との活発な交流 町内会の夏祭りや盆踊り、「ふれあいサロン」などの地域行事に車いすの方も一緒に積極的に出かけ、事業所主催の花火大会には地域の方を招待している。また、近隣の保育園児の訪問日を設けて、利用者と一緒に遊ぶ機会を持ち、地域との交流に努めている。</p> <p>◇医療機関との連携による健康管理の充実 利用者全員が協力医療機関の内科医を主治医として、2週間ごとに往診を受け、歯科医師の定期訪問治療もある。また、利用者が適切な医療が受けられるように、外科、皮膚科、婦人科、循環器、整形外科などの専門医への通院を支援している。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇職員に対する内部研修の充実 事業所では2か月ごとに、理念の徹底、虐待と身体拘束の防止、食中毒の予防、個人情報保護などの内部研修を実施して、利用者へのサービスの向上に取り組んでいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム来夢の家
ユニット名	グループホーム来夢の家 壱番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「来夢の家」の理念を作成し、各ユニットに掲示している。日々の生活において理念が反映されているが、定期的にミーティングにて管理者を支える話し合いを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「慈愛・尊敬・受容の心を大切にする」を理念とし、職員はその人らしさを第一にして、ケアに取り組んでいる。 ・内部研修の議題の一つに理念を取り上げ、職員会議でも理念に沿った介護ができているかを確認している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加させて頂くと共に、ホーム主催の花火大会には近隣の方々にも参加して頂き、お子様を含めた交流を深めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、夏祭りや盆踊り、ふれあいサロンなどの地域の行事に参加し、事業所主催の花火大会では地域の方を招待して一緒に楽しんでいる。 ・近隣の保育園の訪問日を設け、事業所内で一緒に遊ぶ機会を持っている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者、ユニットリーダーが中止となり、毎月のミーティングや隔月の勉強会開催し、その中でグループホームの役割りについて話し合うようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を開催し、近隣の代表者と見識者と共に、事業所の様子を報告し、ご意見を頂き、ホームの活動に活かし、それを職員に周知することにより、地域の交流に活かす努力を続けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議には利用者家族、地域会長、民生委員が参加し2か月ごとに行い、事業所の活動報告、町内会の行事の案内、意見交換を行っている。 ・利用者家族から外出の機会を多くしてほしいとの意見があり、改善に取り組んでいる。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は、制度の改正等で指導や説明を通して、ホームの現状を伝えている。運営推進会議でも年1回参加していただき、参加がない月でも会議の報告がてら、様々な協力関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市の高齢福祉課、指導監査課、生活保護課とは事業所の様子を伝え、介護関連の情報を得て、運営面で相談の機会を持っている。 ・市内のグループホーム協議会に参加し、他事業所との交換介護研修を行い情報交換をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に注意しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、申送り時やミーティングにて身体拘束防止について話し合うようにしている。	・職員研修を行い、身体拘束をしないケアについて話し合い、疑わしい状況には職員同士で確認してケアに取り組んでいる。 ・職員は、状況に応じてトイレ誘導にもその方にあった言葉かけに配慮して支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、その内容を職員全員に周知するように機会を確保、日々のケアにも潜んでいる虐待につながる言動をスタッフ同士で互いに注意しあう関係を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて、スタッフが共に協力して学び阿。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、今年度の制度改定を含め十分な説明を行い、質問等に答えて理解を得る努力をしている。ケアの面でも入居の際に、ケア内容を説明しご家族の協力についても説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム利用上の苦情を受け付ける窓口を明確にして、苦情に対する早期の対応及び解決を心がけている。また、管理者より職員への粗鋼も徹底している。	・家族からの意見や要望は面会時や運営推進会議で聴いている。 ・家族への毎月「お便り」で利用者の様子を伝え、その返信に「意見・要望」欄を設けて収集し、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1階の運営会議にて運営者と管理者とで話し合い、その結果を職員に周知して、法人としてのスタンスを明確にすることで、会社運営を理解し、事業所の運営を反映できるように努力する。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のフロア一会議で、職員の意見を聞き運営に反映している。 ・職員全員で業務マニュアルを見直し業務の流れを改善した。 ・休憩が取りづらいとの職員意見を受けて、近隣のマンションに一室を借りて休憩時間を確保している。 	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎年職員の就業状況を判断して、給与の水準アップや、公的な最低賃金等にも配慮して、適切な処遇を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、個別の希望と事業所の要望を取り入れ、年間を通して計画し、全体の勉強会では、時期的に必要な応じた企画を学ぶこととしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を活用し、他施設との交流介護体験に参加して、他施設の状況を実際の場面で確認することで、スタッフの向上とする。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居される方々に対し、ホームを理解して頂くような、十分な説明と理解を得る努力をします。入居される方の様子を理解するまでは、受容を基本として、傾聴する姿勢を基本とします。安心して頂く生活を目指す。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しく入居頂く方々のご家族に対して、ホームの生活環境も十分な理解がないので、積極的に状況をお知らせする機会を設ける。写真や手紙で、お年寄りの様子を知らせ、行事等の参加も促すようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期の対応として、個別の言動や他の入居者様との関係を見極めるように変化を感じ取るようにしている。生活援助が必要なタイミングや環境の必要性についてもご利用者様とご家族の意見を聞ききながら対応する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を受ける方への生活支援を、介護側の一歩的な援助とはせず、共に生活する者として、日課への参加や個人の所有物の整理、洗濯物の仕分け片付けを個々に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、町内会の一緒に参加して頂いたり、季節の行事・個人の誕生会にご家族の参加意識を高めお祝いの日の同じ時間を過ごすことで、周囲への配慮と個別の関係を維持できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が入居前に大切にしていた物や場所、季節、音楽、人等をご家族等より拝聴し、実生活の場面で出来るものや外出時にできること、人を外部より呼んでできること等を考えて、今出来ることを行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の会話から利用者の馴染みの人や場所を聞いて、関係の継続を支援している。地元出身の方が多いので、町内会の行事で馴染みの方との出会いを楽しんでもらっている。 ・家族対応でお墓参りや馴染みの美容院に出かける方もいる。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の生活環境の違いを整えることで、トラブルを少なくして、孤立を防ぐ努力をしている。食事以外でも食卓にて複数の皆様が、テレビを見たり体操をしたり、協力して食材の下ごしらえをしたり、互いの協力関係を感じ取るような努力		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も居宅介護支援事業所との引継ぎをしっかりと行うと共に、介護方法や必要な物品の調達等について助言できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情からご本人の意見を汲み取り、その人らしくホーム生活を送って頂けるように心がける。	・日頃の会話や表情から思いや意向を把握し、利用者に花見の行き先なども相談し、希望に沿った支援を行っている。 ・本人の意向を汲み取り、家族対応での外食にでかける方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等から小まめに、入居前の状態や若い頃の様子を聞き入れ、これまでの生活歴を把握し、職員全員が共有することができるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全てが一人ひとりの全身状態を把握し、自力で出来る事柄には積極的に参加して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が暮らす毎日を良いと感じる援助としていきたいため、ご家族の意見を課題とすり合わせ、短期と長期で考えていく。ご本人様の一人の援助をグループで行う援助をいつも健とすいていく。	・計画担当者と管理者と家族が話し合い、ケアプランを作成している。 ・職員間のミニカンファレンスで、担当医師、看護師、家族の意見を取り入れ、半年ごとにケアプランを見直し、変化のあった場合はその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を日々、時間の経緯と共に記載し、職員の申し送りの際には一人の情報として伝達していく。また、全職員が情報の共有をするため、申し送りノートの活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応として、その時々々のニーズに応ずる体制づくりは、その都度その場で検討して対応している。急な病院受診のニーズもあれば外出もあるので、		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着がテーマの施設であることを心がけ、町内会長・民生委員を始め沢山の地域の皆様にご協力を頂き、季節の行事等に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診療については、個別の体調や慢性病等の療養管理をご家族の意見を聞き入れ、定期的な診療を提供していく。専門的な治療については、その都度専門医の指示を受けて、各科の医師との協力していく。	・整形外科や皮膚科などは、掛かりつけ医での受診を支援している。 ・内科は、家族の了解のもと全員が協力医療機関の内科医を主治医とし、2週に1回の定期往診がある。必要時には歯科医の往診がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3日、看護師が出勤する時に、必要な処置や専門的な助言、健康指導を行っている。健康チェックについては、急な変化に十分配慮して、病気の可能性を予知して考えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の主治医やご家族等との話し合いを重ね、退院の方向性を定め、ホーム主治医との連携を図り、病院とホームとの情報の共有に努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化するご入居者様に対しては、早い時期にご家族と主治医、管理者とで話し合い、ケアを中心に意見を出し合っている。病気に応じて、地域の専門的な医療チームとも連携し、必要な処置・手当を提供している。	・「重度化・終末期ケア対応指針」を、入居時に家族に説明して了解を得ている。 ・今年、3件の看取を行ったが、職員は看護師や経験者からアドバイスをもらい、看取りに対する不安を取り除いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員一人ひとりについて、救急対応の講習に参加し、ご利用者様の急変の備えている。事故の発生については、生命が一番優先することを全員が理解し、救急対応の手順の確認等をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニット毎に、災害時の対応を定め、生命が一番優先することを考え、防災や避難に日頃の訓練を重ねて行っている。災害時は、地域全体がパニック化しているため、ホーム内で安全な場所を確保していくようにしている。	・消防署の立ち合いで年2回防災訓練を行い、火災報知器の点検や使い方等を習得している。 ・管理者が地域の防災訓練に参加して協力体制を築いている。 ・食料品、日用品を備蓄し、リストを事務所に掲示している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権を尊重した言葉かけを重視している。ホームでは、毎日の生活を気持ちよく快適な暮らしをして頂くことを目標としています。個人情報の管理はもちろん、プライバシーの保護も怠らないようにしている。	・利用者を人生の先輩として尊敬し、幼稚な言葉遣いをさげ、名前を呼ぶときは「さん」付けとし馴れ馴れしくないように配慮している。 ・職員は内部研修で個人情報の取り扱いについて学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を自己で判断できるような援助と、自己決定を重視する環境を作っている。ご本人様の意見を傾聴し、希望や要望を活かしていきけるような援助をしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はもちろんありますが、個々の要望によって過すことも大切なことなので、個々の生活スタイルの沿った暮らしぶりをしていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内では、個室以外はパブリックスペースと考え、身だしなみには十分整えて生活して頂くこととしている。1日パジャマで過すことはせず、昼と夜との違いや1日の時間配分も理解して頂くよう援助する。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居室の掃除や食材の下ごしらえ等をその人が出来る範囲で間接的に係わっていただき、食事づくりや衛生面に程よく関与してもらう。食事を食べる時は必ず、一緒に食べることを週間化している。	・正月や敬老会、クリスマス会には、利用者の好みに合わせて独自のメニューで食事を提供している。 ・今年の敬老会には寿司の出前をとり、利用者の誕生日には誕生会を開催して、家族同伴でおやつと飲み物を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェックを行い、個別にまとめ1日の摂取量として一目でわかるようにしている。同時に排尿量等の観察も行い、脱水予防等に役立っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自力で出来ない方には、一人ひとり洗面にて、入れ歯の清掃を同時に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを確認しやすい表にして、形態別の表を作っている。これを個別のページとして、個別の援助に心がけている。	・排泄チェック表により利用者の排泄サイクルを把握して、時間でトイレに誘導している。 ・オムツの利用者にもトイレでの排泄を支援しており、日中はなるべくリハビリパンツで過ごせるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握し、排泄量と時間を確認する。生活サイクルの中で、水分摂取と適度な運動を心がけると共に看護師と共に相談しながら、内服薬の調整も行い、最適な排泄援助を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、安全への配慮と衛生の保持を目的にゆたっりと行っている。入浴日程の変更や調整は、職員の都合ではなく、個別の都合によって決めているので、生活日課に沿って援助している。	・入浴は通常週2回とし、利用者ごとに新しいお湯に入れ替え、ゆっくりと入ってもらえるよう配慮している。 ・入浴介助の機会を捉えて、職員は利用者と一緒に話したり、全身を見て皮膚の状態を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の睡眠パターンを把握して、安心して眠って頂くよう環境を整えている。夜間の排泄援助も汚れる時間を短くして衛生を保つ。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方薬の種類や用法、副作用が記載されている物を個別ファイルリングし、全職員が目を通すことができるようにしている。また、送りノートを活用し、職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の得意、不得意を把握し、出来る限り得意なことを活かしたホームの生活を送って頂けるように援助していく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全職員がお散歩や買い物に対応できるように勤めている。ホームの近くの売店に買い物に行くことで馴染みの関係が築けるよう心がける。	<ul style="list-style-type: none"> ・2Fの利用者は、3時のお茶のおりべランダに出て外気に触れている。 ・職員は利用者が近くのコンビニにお菓子や文房具を買いに出掛けるのに付き添っている。花見時には、近くの公園に出かけて、お茶とお菓子の軽食を楽しんでいる。 	・レクリエーションでの外出に加え、家族やボランティアの協力を得て、日常的に散歩など外出の機会を工夫されることが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、ご家族様より小遣い程度の現金をお預かりして、ご利用者様の要望により、近隣のスーパーに買い物に出掛けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し、携帯電話持って頂き、定期的にご家族向けに連絡を取って頂くような関係作りを構築できれば良いと思っており、ご家族と話が出来る関係は良いと思う。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分のスペースは、全員の共有するスペースとして、季節を感じて頂くような演出を行っている。毎月のような演出は邪魔にならない程度にして、ストレスには十分配慮する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンにカボチャの飾りつけ、クリスマスには各種装飾品にて季節感を演出している。 ・壁面の飾り物は、利用者のストレスになる場合に配慮して、カレンダーと日めくり等だけにしている。 ・室温は25℃湿度50～60%にて、快適に過ごせるように調節している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースには、ソファが備えてあり、個別の居場所となっている。そこで、テレビを見たり、新聞を読んだりして自由に過している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個別のプライバシーが保てる場所として確保している。ご入居者様が入居前にご使用の家具等も持参いただき、生活の自由と安心を考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が居室で居心地良く過ごせるように、就寝時と起床時にエアコンで室温を調節している。 ・居室担当者が、居室の整理整頓をし、清掃は利用者と一緒にこなしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様一人ひとりの認知度に合わせて段階を踏んで説明を行い、混乱を防ぎ安心を感じて頂くよう努力する。その人らしい生活の実現に向けて支援していく。		

事業所名	グループホーム来夢の家
ユニット名	グループホーム来夢の家 式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「来夢の家」の理念を作成し、各ユニットに掲示している。日々の生活において理念が反映されているが、定期的にミーティングにて管理者を支える話し合いを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加させて頂くと共に、ホーム主催の花火大会には近隣の方々にも参加して頂き、お子様を含めた交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者、ユニットリーダーが中止となり、毎月のミーティングや隔月の勉強会開催し、その中でグループホームの役割りについて話し合うようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を開催し、近隣の代表者と見識者と共に、事業所の様子を報告し、ご意見を頂き、ホームの活動に活かし、それを職員に周知することにより、地域の交流に活かす努力を続けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は、制度の改正等で指導や説明を通して、ホームの現状を伝えている。運営推進会議でも年1回参加していただき、参加がない月でも会議の報告がてら、様々な協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に注意しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、申送り時やミーティングにて身体拘束防止について話し合うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、その内容を職員全員に周知するように機会を確保、日々のケアにも潜んでいる虐待につながる言動をスタッフ同士で互いに注意しあう関係を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて、スタッフが共に協力して学び阿。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、今年度の制度改定を含め十分な説明を行い、質問等に答えて理解を得る努力をしている。ケアの面でも入居の際に、ケア内容を説明しご家族の協力についても説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム利用上の苦情を受け付ける窓口を明確にして、苦情に対する早期の対応及び解決を心がけている。また、管理者より職員への粗銅も徹底している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1階の運営会議にて運営者と管理者とで話し合い、その結果を職員に周知して、法人としてのスタンスを明確にすることで、会社運営を理解し、事業所の運営を反映できるように努力する。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎年職員の就業状況を判断して、給与の水準アップや、公的な最低賃金等にも配慮して、適切な処遇を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、個別の希望と事業所の要望を取り入れ、年間を通して計画し、全体の勉強会では、時期的に必要なに応じた企画を学ぶこととしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会を活用し、他施設との交流介護体験に参加して、他施設の状況を実際の場面で確認することで、スタッフの向上とする。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居される方々に対し、ホームを理解して頂くような、十分な説明と理解を得る努力をします。入居される方の様子を理解するまでは、受容を基本として、傾聴する姿勢を基本とします。安心して頂く生活を目指す。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しく入居頂く方々のご家族に対して、ホームの生活環境も十分な理解がないので、積極的に状況をお知らせする機会を設ける。写真や手紙で、お年寄りの様子を知らせ、行事等の参加も促すようにする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期の対応として、個別の言動や他の入居者様との関係を見極めるように変化を感じ取るようにしている。生活援助が必要なタイミングや環境の必要性についてもご利用者様とご家族の意見を聞ききながら対応する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を受ける方への生活支援を、介護側の一歩的な援助とはせず、共に生活する者として、日課への参加や個人の所有物の整理、洗濯物の仕分け片付けを個々に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、町内会の一緒に参加して頂いたり、季節の行事・個人の誕生会にご家族の参加意識を高めお祝いの日の同じ時間を過ごすことで、周囲への配慮と個別の関係を維持できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が入居前に大切にしていた物や場所、季節、音楽、人等をご家族等より拝聴し、実生活の場面で出来るものや外出時にできること、人を外部より呼んでできること等を考えて、今出来ることを行っていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の生活環境の違いを整えることで、トラブルを少なくして、孤立を防ぐ努力をしている。食事以外でも食卓にて複数の皆様が、テレビを見たり体操をしたり、協力して食材の下ごしらえをしたり、互いの協力関係を感じ取るような努力を怠らない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も居宅介護支援事業所との引継ぎをしっかりと行うと共に、介護方法や必要な物品の調達等について助言できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情からご本人の意見を汲み取り、その人らしくホーム生活を送って頂けるように心がける。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等から小まめに、入居前の状態や若い頃の様子を聞き入れ、これまでの生活歴を把握し、職員全員が共有することができるよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全てが一人ひとりの全身状態を把握し、自力で出来る事柄には積極的に参加して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が暮らす毎日を良いと感じる援助としていきたいため、ご家族の意見を課題とすり合わせ、短期と長期で考えていく。ご本人様の一人の援助をグループで行う援助をいつも健とすいていく。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を日々、時間の経緯と共に記載し、職員の申し送りの際には一人の情報として伝達していく。また、全職員が情報の共有をするため、申し送りノートの活用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応として、その時々ニーズに応ずる体制づくりは、その都度その場で検討して対応している。急な病院受診のニーズもあれば外出もあるので、		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着がテーマの施設であることを心がけ、町内会長・民生委員を始め沢山の地域の皆様にご協力を頂き、季節の行事等に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診療については、個別の体調や慢性病等の療養管理をご家族の意見を聞き入れ、定期的な診療を提供していく。専門的な治療については、その都度専門医の指示を受けて、各科の医師との協力していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3日、看護師が出勤する時に、必要な処置や専門的な助言、健康指導を行っている。健康チェックについては、急な変化に十分配慮して、病気の可能性を予知して考えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の主治医やご家族等との話し合いを重ね、退院の方向性を定め、ホーム主治医との連携を図り、病院とホームとの情報の共有に努める。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化するご入居者様に対しては、早い時期にご家族と主治医、管理者とで話し合い、ケアを中心に意見を出し合っている。病気に応じて、地域の専門的な医療チームとも連携し、必要な処置・手当を提供している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員一人ひとりについて、救急対応の講習に参加し、ご利用者様の急変の備えている。事故の発生については、生命が一番優先することを全員が理解し、救急対応の手順の確認等をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニット毎に、災害時の対応を定め、生命が一番優先することを考え、防災や避難に日頃の訓練を重ねて行っている。災害時は、地域全体がパニック化しているため、ホーム内で安全な場所を確保していくようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権を尊重した言葉かけを重視している。ホームでは、毎日の生活を気持ちよく快適な暮らしをして頂くことを目標としています。個人情報の管理はもちろん、プライバシーの保護も怠らないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を自己で判断できるような援助と、自己決定を重視する環境を作っている。ご本人様の意見を傾聴し、希望や要望を活かしていきけるような援助をしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はもちろんありますが、個々の要望によって過すことも大切なことなので、個々の生活スタイルの沿った暮らしぶりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内では、個室以外はパブリックスペースと考え、身だしなみには十分整えて生活して頂くこととしている。1日パジャマで過すことはせず、昼と夜との違いや1日の時間配分も理解して頂くよう援助する。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居室の掃除や食材の下ごしらえ等をその人が出来る範囲で間接的に係わっていただき、食事づくりや衛生面に程よく関与してもらおう。食事を食べる時は必ず、一緒に食べることを週間化している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェックを行い、個別にまとめ1日の摂取量として一目でわかるようにしている。同時に排尿量等の観察も行い、脱水予防等に役立っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自力で出来ない方には、一人ひとり洗面にて、入れ歯の清掃を同時に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを確認しやすい表にして、形態別の表を作っている。これを個別のページとして、個別の援助に心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握し、排泄量と時間を確認する。生活サイクルの中で、水分摂取と適度な運動を心がけると共に看護師と共に相談しながら、内服薬の調整も行い、最適な排泄援助を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、安全への配慮と衛生の保持を目的にゆたっりと行っている。入浴日程の変更や調整は、職員の都合ではなく、個別の都合によって決めているので、生活日課に沿って援助している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の睡眠パターンを把握して、安心して眠って頂くよう環境を整えている。夜間の排泄援助も汚れる時間を短くして衛生を保つ。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方薬の種類や用法、副作用が記載されている物を個別ファイルリングし、全職員が目を通すことができるようにしている。また、申送りノートを活用し、職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の得意、不得意を把握し、出来る限り得意なことを活かしたホームの生活を送って頂けるように援助していく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全職員がお散歩や買い物に対応できるように勤めている。ホームの近くの売店に買い物に行くことで馴染みの関係が築けるよう心がける。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、ご家族様より小遣い程度の現金をお預かりして、ご利用者様の要望により、近隣のスーパーに買い物に出掛けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し、携帯電話持って頂き、定期的にご家族向けに連絡を取って頂くような関係作りを構築できれば良いと思っており、ご家族と話が出来る関係は良いと思う。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分のスペースは、全員の共有するスペースとして、季節を感じて頂くような演出を行っている。毎月のような演出は邪魔にならない程度にして、ストレスには十分配慮する。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースには、ソファが備えてあり、個別の居場所となっている。そこで、テレビを見たり、新聞を読んだりして自由に過している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個別のプライバシーが保てる場所として確保している。ご入居者様が入居前にご使用の家具等も持参いただき、生活の自由と安心を考えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様一人ひとりの認知度に合わせて段階を踏んで説明を行い、混乱を防ぎ安心を感じて頂くよう努力する。その人らしい生活の実現に向けて支援していく。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム来夢の家

作成日 平成27年12月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	レクリエーションでの外出に加え、家族やボランティアの協力を得て、日常的に散歩など外出の機会を工夫されることが望まれる。	日常生活の中に外出の機会が少なく、できるだけ施設内だけでなく、施設外の環境の変化を楽しんでいたできるように心がけている。	季節の環境変化は大きいですが、スタッフに加えて、町内の婦人会等と協力し、付き添いの協力を得て、生活の一部になるよう取り組む。	6か月
2					
3					
4					
5					